

## <体育の授業の中で> ～体育のユニバーサルデザイン～

体育の学習では、特別支援教育の視点からみて、どの子どもにも学習しやすい手立てや工夫がたくさん見られる。

### ◎授業の流れ

- 1つの単位の中に決まった流れがあり、見通しがもてる。
- 活動1つ1つが5～15分のまとまり（支える学習，基本学習，発展学習）になっていて，集中力が続く。

### ◎教具等の工夫

- 学習板に**目指す姿**が提示されている。
- 学習板1枚に，その単元の**学習内容**や**積み重ね**が全て表されている。
- 「合格」「もう少し」の**規準**が，子どもにはっきりわかるように示されている。
- 器械運動での，**恐怖心を和らげる工夫**がされている。（失敗しても痛くない場づくり）
- 学習ファイル等が**班ごと・チームごと**にまとめられていて，**すぐに使える**。

### ◎学習の決まり

- 「集合！」で集まる，自分が技をやったらハイタッチで交替など，**決まった動き**をすることが多い。
- 全校共通の学習のルールになっていて，**学年が変わっても体育の基本のルールは変わらない**。

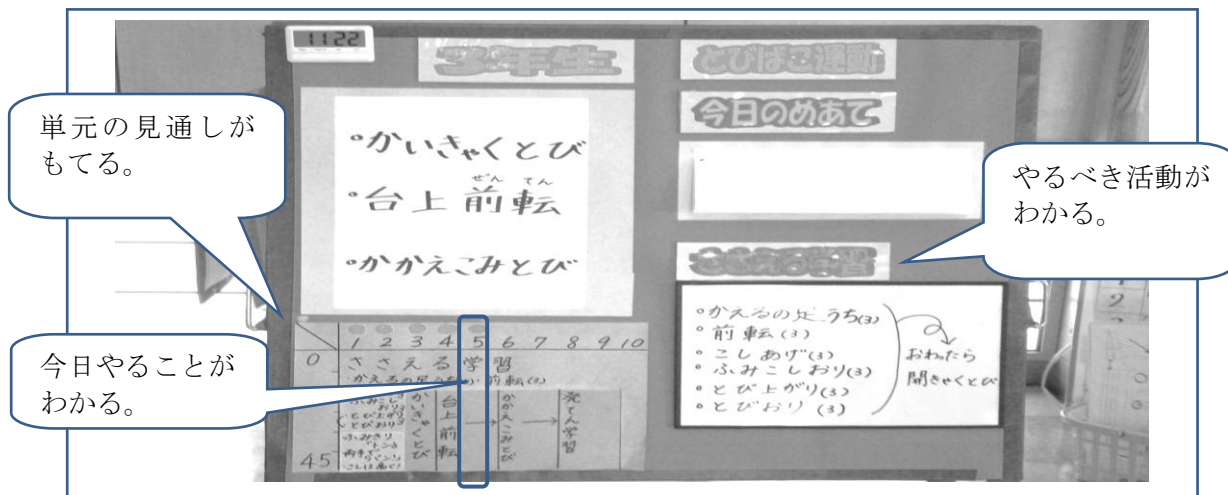
### ◎学習内容

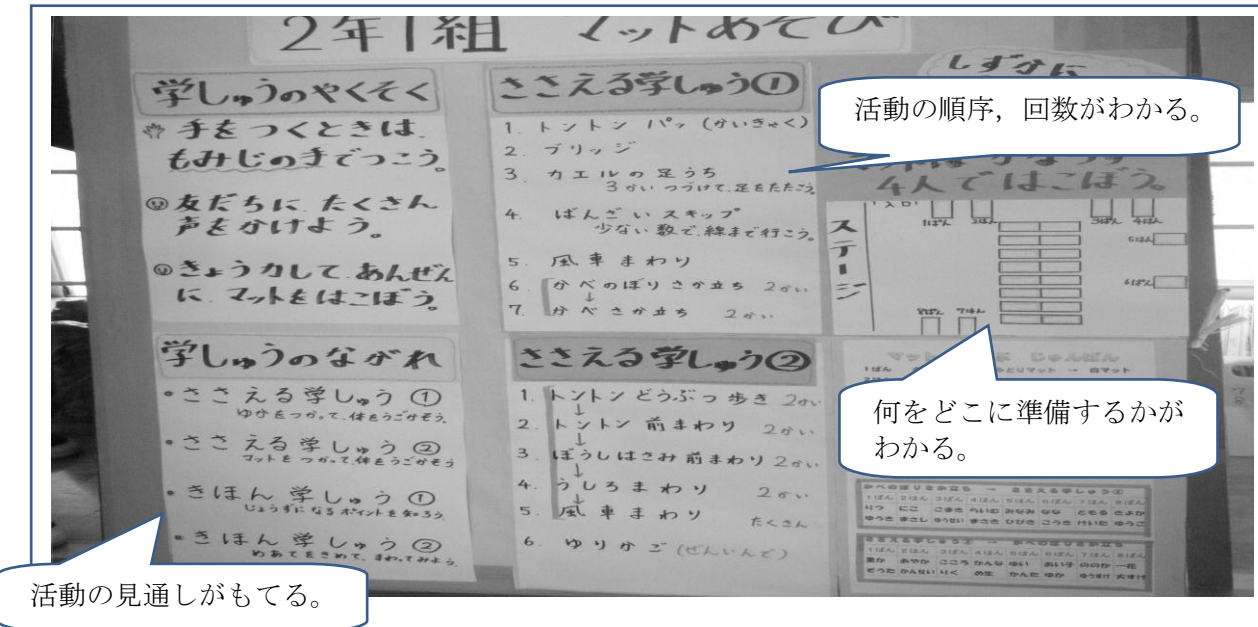
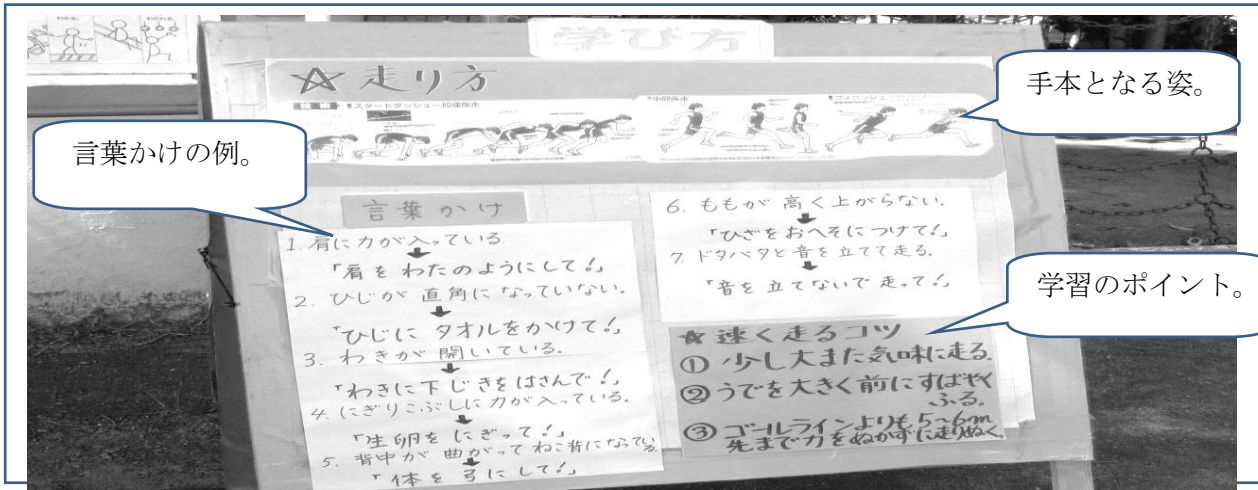
- その日のめあてやスモールステップの課題が決まっています，**やるべきことがわかりやすい**。
- 学級全体の伸びを喜び合う場面**が設定されている。（跳び箱のメリーゴーランド，鉄棒の逆上がり競争等）
- 1時間の中で**身に付けさせたいことが焦点化**されている。
- 準備や片付けにかかった時間を計り，**目標タイムを設定**している。**具体的な目標**を設定している。

### ◎その他の工夫

- ゲームのルールを，運動が苦手な子や配慮を要する子がチームにいることで不利にならないよう工夫している。
- ゲームやペアの組み合わせは，教師が意図的に組む。
- 「できた」「できなかった」の結果だけでなく，**一人一人の頑張りを認め，全体に広める**。

### ◎学習板に見られるユニバーサルデザイン

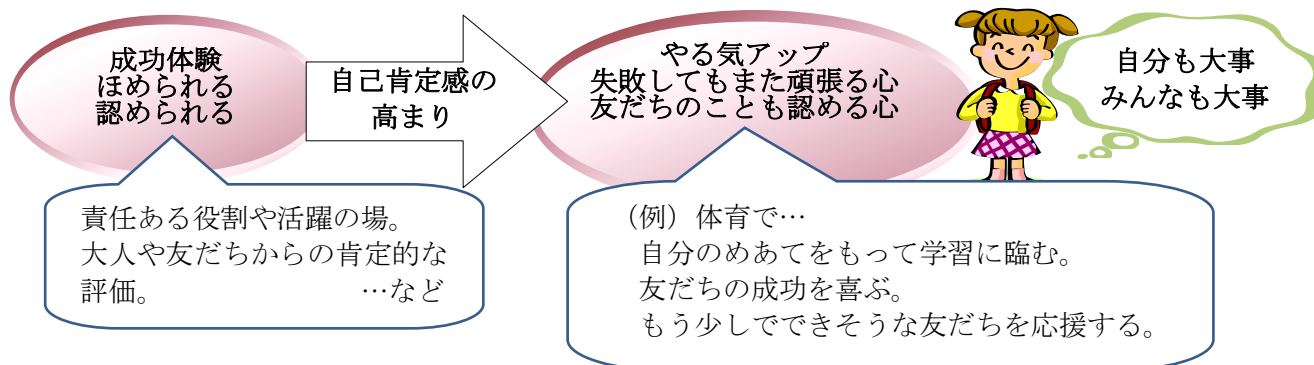




これらの手立てや工夫は、  
全ての子どもにとって学習しやすい手立てや工夫になっている。

## <肯定的集団づくりの中で>

本校の学級経営では、一人一人が自己肯定感をもつことができるよう配慮・工夫した取り組みを行っている。子どもの自己肯定感を高めるのは、成功体験と、人から褒められ認められた経験である。それらの経験が多い子は、自分に自信をもち、友だちにも優しく接することができるようになる。



学級の中には、友だちと上手にかかわることができない子もいる。そのような子には、その子自身の自己肯定感を高めるとともに、友だちへの上手なかわり方や友だちからのかわりへの応え方などを教える必要がある。それらを身に付けることで、お互いに高め合える関係をつくることができる。

「一人一人が自分の居場所と役割をもち、お互いに高め合うことができる学級」が、勝田台小学校が目標とするものである。

## <秩序のある集団づくり>

秩序のある集団づくりは、子どもたちに「安心感」と「学びの機会」を保障するために必要不可欠なものである。本校では、全校で規律を整える場を毎日設けている。

**業間体育**では毎日決まった活動が行われる。学級やなかよしグループで活動した後、体づくり運動、1分間走、行進と、毎回同じ流れで活動する。やるべきことがわかっていて、達成感を味わえる活動である。ここで学ぶ集団規律や、「話を聞くときは、話している人の方を向く」、「発表するときは、みんなの方を向く」などの約束が、秩序のある集団づくりにつながっている。そして、この活動が学級や授業での秩序を生み出している。



**清掃**も全校で規律を整える場ととらえている。始まりのチャイムで全員が一斉にあいさつをし、気持ちを切り替えて清掃に取り組む。清掃のやり方も、清掃集会を通して全校で統一している。終わりのチャイムで一斉にあいさつをして教室に向かう。始まりと終わりが明確に示されていること、学年が上がっても同じやり方で清掃できることが、子どもたちの安定と秩序のある集団づくりにつながっている。全校でやり方を統一しているため、全教師が一貫して指導ができることも、良い効果を与えている。

これらの活動は、子どもたちの安定と秩序のある集団づくりにつながっている。  
秩序のある集団は肯定的集団づくりの土台であり、  
大切なユニバーサルデザイン環境となっている。